

窮理
捷徑
十二月帖
上

福岡第一師範學校
(學校圖書)

登錄號 第 號

美術及體育門

繪畫部

書及書譜法帖項

目次

全冊ノ内第 冊

分類號 第 728.12

福岡師範學校

書門 字

部 帖

番 7

號 一

二冊ノ内

24828

圖書 和圖書 遡



a 1 3 8 0 3 2 7 8 5 5 a

福岡教育大学蔵書

T1A1

72

U14

内田音齋著

窮理
捷徑

十二月帖

全二冊

明治五壬申

玉養堂

秋七月刊行

萬蘊堂

發兌

序

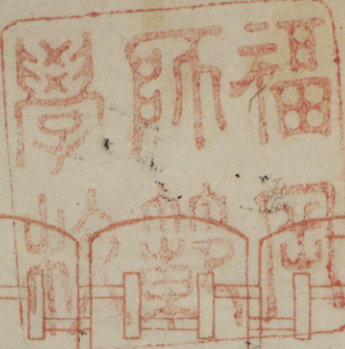
國の貧弱海弱を其人民

能知悉か何をもてんを

トとて——山民の無学又

盲目に惑はるるを

為強を祈りて移すべし



しそ黄氏求まよ界のくん
あまふ余輩のつね福をうけ
しそ何那と抑し人改
育しそ適ふふれき高上乃
そそきんともふ知とも
知は凡そきうふし人のむ

凡そしそきしそふ達とふ
けり手しそふきふ改
と厚き入ものあふん先
ふしそ智の文二冊き若し
そそきしそ智のしそ改
或いそき改め便利なるを

すけ^ま然^まと^まは^ま二冊
と^ま又^まれ^ま数^ま少^ま
習^まの^ま手^ま本^まあ^まま^まと^ま終^まれ
と^まふ^まつ^まて^まに^ま決^まり^ま友^ま人^ま内^ま田^ま我^ま
十二月^ま帖^まを^ま若^まく^まお^まう^まま
ふ^まれ^ま刻^まを^ま料^まと^まに^まふ^まを

=

一^まん^まや^まと^まに^ま作^ま裁^ま平^まと^ま
年^ま習^まの^ま文^まと^ま尋^まく^ま本^ま
書^まの^ま補^ま遺^まと^まい^まふ^まあ^まり
ふ^まり^ま世^ま人^まと^まあ^まは^まち^ま知^まる^ま
ま^まの^ま習^まふ^ま文^まと^ま併^ませ^まこ^ま小^ま
学^ま校^まの^ま用^まに^ま供^まふ^まと^まあ^まら^まハ

如く金銀公成しき

家乃為免し一層の裨益

を致し世々の為とし

并に

明治五年壬申之日

福澤諭吉誌

窮理
捷徑
十二月帖上

内田晉齋著并書

新春し水交ふるに
風来如夜し神先以

酒金家^{サカ}の^ニも^ハ常^{トシ}福^{コト}
少^{コト}起^ア来^キを^ニ出^デて^ハ冷^{ヒヤ}敷^シ
倉^{クラ}一^{ヒト}回^{マヒ}甘^{カン}き^ニ馬^{ウマ}鈴^{スズ}が^ニ
ア^ニド^ト原^{ハラ}に^ニ休^ユむ^ニ事^{コト}あり

今日^{こんにち}も^ニ世^よ間^{かん}分^{ぶん}り^ニ玉^{たま}珠^{じゆ}
新^{あらた}年^{とし}に^ニ天^{てん}下^か新^{あらた}氏^し
春^{はる}に^ニ取^と掛^かけ^ニ祝^{いわ}ひ^ニ者^{もの}
長^{なが}山^{やま}美^み子^こ身^みお^ニか^ニる^ニ事^{コト}あり

省此序此際

之先此序此際

所教諸事教之謹

是教之教日

正月七日

新禧之慶又曰純

良度及此之慶又曰

節之慶又曰慶又曰

予は西海諸国
の十月五日
に於て
我が邦
に於て
新年を
祝ふ

弟等と
共に
新年を
祝ふ
時
に
地球
は
大
に
和
暖
な
る
と
思
ふ
所
な
ら
ん

注海の正日さるる
王の答にさるる
と床時氣此係護護
何と云うか

睦日十午

漸く暖かむ
ハツガミナリ
の如く美しき

時を耳に^{しん} 砦^{しん}の^{しん}は^{しん}に^{しん}
思ふ^{しん}も^{しん}也^{しん} 追^{しん}傍^{しん}の^{しん}花^{しん}
と^{しん}花^{しん}也^{しん} 怪^{しん}敵^{しん}の^{しん}式^{しん}
車^{しん}向^{しん}来^{しん} 雷^{しん}之^{しん}起^{しん} 於^{しん}

理^{しん}合^{しん}の^{しん}何^{しん}種^{しん}の^{しん}理^{しん}也^{しん}
乃^{しん}復^{しん}学^{しん}の^{しん}教^{しん}訓^{しん} 亦^{しん}有^{しん}
之^{しん} 二^{しん}月^{しん}廿^{しん}五^{しん}
前^{しん}照^{しん}雷^{しん}之^{しん}理^{しん}合^{しん}之^{しん}也^{しん}

ふまぬ中と一朝一夕
ふまぬ中と一朝一夕
ふまぬ中と一朝一夕
ふまぬ中と一朝一夕
ふまぬ中と一朝一夕
ふまぬ中と一朝一夕
ふまぬ中と一朝一夕
ふまぬ中と一朝一夕
ふまぬ中と一朝一夕
ふまぬ中と一朝一夕

気陰陽二種
凡天地間万物多少
皆由氣陰陽二種
凡天地間万物多少
皆由氣陰陽二種
凡天地間万物多少
皆由氣陰陽二種
凡天地間万物多少
皆由氣陰陽二種
凡天地間万物多少
皆由氣陰陽二種
凡天地間万物多少
皆由氣陰陽二種

一、イロ云々ニ陽乃越
歴第亦ハ越ニ乃ハ越
乃ハ時陰陽ニ二氣互
お今ハ生ニ平均ニん
ツリアヒ

乃ハ新ハ烈々ハ中
飛ハ行ハ既ハ相合
乃ハ美ハ乃ハ聲ハ動ハ乃
乃ハ光ハ黄ハ乃ハ電
ウチアヒ
イカフ

一ノ二ノ中ニ
光ノ以テ諸王越歴ノ
中ニ試死行ハル時ニ
通路今生ハ里ニ
君ハ老臣生ハ里ニ

光ノ以テ諸王越歴ノ
中ニ試死行ハル時ニ
通路今生ハ里ニ
君ハ老臣生ハ里ニ

未光能自遠乎也
 至神速乎也
 年之應也

一之考
 時に狂不電
 光先年王費
 一之候
 雷鳴多し根
 思ふは弟と

一ノノノノ
新く出来る利が
合衆國と學者と
リントー人鋼の糸乃
子よりみは糸も雷

一ノノノノ
鳴る風の中
ちねをむね合以後
鳴る文より此
も其雷除の柱傳

位しん機き抄しやうと玉ぎよ吏しいいししを

先さきのの省しやう況きやうのの大だい男なん程ちやう

考かう友ゆう高かうのの何なに是こゝ也や村むら田でん目め

今いまのの旬じゆんとと持も報ほう

仲なかつ冬ふゆ念ねん日にち

当あた之の省しやう除じよのの柱ちゆうとと多たのの天てん

変へん地ち吳いとと小せうのの考かう友ゆう

多たのの考かう友ゆうとと小せうのの考かう友ゆう

新に春来ぬか様
海に風を吹く
新

今日も時を待たず

暖氣を白く運ぶ
梅をまきまき朱唇を
中へ
海を渡る一日

賞花遊伴
梅も花中
主海外
重頼物
主人
詩人
之
山
河
至
店
り

賞花遊伴
先主
夜
河
可

三月節

梅花遊伴

ふし、実とふのそに艶美 えんび

はるを我日本一國 ウツクシキ

ふし、伴 せん 西洋社 しやうや

影 かげ 多 おほ 人 ひと 車 くるま け け 小 こ

福 ふく 目 め 悦 えき 心 こころ

ふし、是 こゝろ 人 ひと 心 こころ 家 いえ 部 ぶ

つ つ 花 はな より より なる なる 時 とき 生 う れ れ 奴 やつ 僕 ぼく

ふし、原 はら 心 こころ 併 ひ 心 こころ 実 じつ 能 のう

才永キイ

東洋の

金瓶梅

日本實業五十年史

田舎の遺蹟
 クチヲシキ
 い
 う
 ん

ク
チ
ヲ
シ
キ

年
 生
 買
 の
 漬
 物
 粕
 来

17
17
17

永年松援

一
瓶
入
造
口
噴

味 下 度 日 持 居

生 云

時 梢 在 氣 即 是

卷 悲 清 福 之 為 入

恭 笑 之 明 之 釋 出 延

生 之 部 始 之 之 之 是

涉 之 余 福 被 之 之 之 之

活 達 子 様 方 以 運 動

為^カ之^カ所^カ一^カ遊^カ之^カ也
其^カ考^カ之^カ一^カ有^カ其^カ釋^カ
其^カ生^カ之^カ地^カ大^カ是^カ之^カ何^カ
一^カ受^カ之^カ生^カ地^カ當^カ今^カ之^カ何^カ

其^カ之^カ樣^カ之^カ一^カ乃^カ
條^カ之^カ夜^カ緣^カ之^カ間^カ之^カ也
一^カ向^カ不^カ案^カ内^カ之^カ大^カ之^カ當^カ或^カ
其^カ之^カ依^カ之^カ一^カ乃^カ之^カ也

トクハ学教ふま行

と再様

四月七日

貴翰お酒より追々若

氣を近江守と承

酒多祥とん取極やの

事とん明を灌佛に

常令とん浅き素直

一 就るも悪き世に
引くも難き世に
面何ふも速に
とて信じて釋を

生乃地ハ王立の南に
錫菜トト嶋も今を

美吉初に欣ふも大

怒ふも港あり我玉横濱

柳の中と遠及ふ
行は地肉桂の名所
こころ生息風一陽
数十里と渡りて航海

の老ふの香う瑞々早
此嶋と遠くは渡り
福又と笑ふ家音
考ふ当今多ハ渡り

門那獲教もんがくと佛教ぶつぎょう
漢かん梯し乃なり此こ者しや
他國たこく乃なり支那しな日本にっぽん
多おほ位い所ところ多おほ矣や

予よけづけづ一いっ貴き福ふく海かい
先まづハ返へん者しや也なり有あり

初はつ友ゆう第だい七しち

涉せつ越こ一いっ成なり品しん久く矣や

用いゝるふくは梅田し
多ふ人又一面がひ致生
以て流用と云ふは難し
海へ出るは少く望むすゝ勢

長下し山付といふ品は
白毛ん今も市を諸
品とて徴するは南は子
石流とて城を以て一休と
キタナキ

漢かんッッああ何物なニモノとと云いふ

何なん度ど漢かんッッ呈てい短たん柄へいシシ呈てい

五ご日にちナナ

酒しゅ大だい切きッッ印いん因いん子し連れん酒しゅ

借かッッ下か少せうッッ酒しゅ二に白はく

姉あねけけ所しよッッ鞋せ多たッッ鞋せッッ

正せい日にち梅ばい田でんッッ為な知ちッッ該がい物ぶつ

二に日にち生せいッッ汚け様さんッッ早さ石いし

何より此物本^{せん}
 末^{ハハル}此^{ハハル}爲^{ハハル}得^{ハハル}と毎^{ハハル}々^{ハハル}以^{ハハル}尤^{ハハル}
 少^{ハハル}余^{ハハル}亦^{ハハル}来^{ハハル}か^{ハハル}毛^{ハハル}を^{ハハル}肉^{ハハル}
 眼^{ハハル}主^{ハハル}見^{ハハル}る^{ハハル}記^{ハハル}ハ^{ハハル}其^{ハハル}を^{ハハル}際^{ハハル}

病^{ハハル}お^{ハハル}人^{ハハル}を^{ハハル}得^{ハハル}る^{ハハル}事^{ハハル}は^{ハハル}
 頭^{ハハル}痛^{ハハル}病^{ハハル}主^{ハハル}見^{ハハル}る^{ハハル}時^{ハハル}是^{ハハル}
 乃^{ハハル}物^{ハハル}え^{ハハル}ト^{ハハル}一^{ハハル}種^{ハハル}ハ^{ハハル}少^{ハハル}々^{ハハル}
 一^{ハハル}毛^{ハハル}を^{ハハル}白^{ハハル}髪^{ハハル}

色はすく（黄衆）之葉

孝かき寒日比尋

ト山就きハ生（せん）成（ハヘル）

の理念ハ失法（と）回

ト是（ん）室（だん）暖（つ）湿（さ）燥（さ）

組（ぐ）今（あ）まき（ひ）生（し）長（ち）い

多（た）く（は）な（り）た（り）た（り）

後

蒲月十日

甚暑き節に下
無水仕健少起居
格くはま候様は下

ヨロコブ

尚方一回今昇り参る

まじは候少候参り下

耳末下へ候少候参り下

氷菓子箱

アイスクリーム

然くも贈きとあるまは
まゝ子連お屏美
望生ハ勿偏室の中
分ち此くり受て日聲

キモヲ

きんやう

美^{うん}以^{うん}キ^{うん}——糖^{うん}と^{うん}お食^{うん}
——生^{うん}味^{うん}甘^{うん}美^{うん}——
天^{うん}然^{うん}の物^{うん}と^{うん}い^{うん}け^{うん}ふ
と^{うん}れ^{うん}炎^{うん}熱^{うん}忽^{うん}ち^{うん}消^{うん}

うん

うん

うん

うん

うん

うん

うん

うん

うん

老し満ち儂子

羞む杖杖も

若くは海老一層の

或は起し佐

やふも

あ某子

厚く且生理合

りけし甚く

序言書友之記
多友比之書友之先
以世書友之條
福一子之書友之先

此如相親之時
後之世書友之先
お啓

六月十日

先日星上被とある菓子
月を荒はるるなり
ふも片男を以て
しと先がブリキを大い

でん
デニ
ガキ

二箇の桶より
桶のふちを以て
糖をたえ牛乳を
汁を以ておろす

カ
シ
ノ
チ
ミ
カ
ン

得いひしきばよき程

年中いんねん 混和こんわ

小桶せうぶく 大桶だいぶく のの へ

結晶けつしょう 硝酸けつさん 母あは 母も 母は 母あ 母あ

一 葉えふ 小桶せうぶく 大桶だいぶく

月げつ 成なり 丈だけ け 多おほく 入いれ 是

所ところ 多おほく 是こゝ 系けい の 中ちゆう

冷水れいすゐ 多おほく 入いれ 是

此時の茶は多量に
及水の濃度を
減し寒暖計水
計十七度位を

ひきかゝる。小桶内の水
を氷とあまらしめ
より茶を煎し
ほろろとゆをむる

とて本明りて好
次第に身と枝に
不と糸、あつひ 價少く、カルジキ 座れん
とて此と云ふは

とて此と云ふは
置て其下と度と成る二百
度と成る用と成る二百
程と成る中と成る法

集通^{しん}を^{しん}ま^るて^るに^てす

之法^{しん}を^{しん}中^{しん}一^{しん}才^{しん}一^{しん}

管^{しん}便^{しん}を^{しん}故^{しん}み^{しん}て^{しん}す

六月十九

